

第24回

ひとはなぜ生きるのか

生きる意味や理由を知って生きているひとがどれほどいるだろうか。

生き続けることが苦しくなったときにかぎって、「なぜ生きる必要があるのか」との問いを自分に突きつけたくなるのだが。

この問い自体の空虚さを考察すると同時に、生の実体に対して、われわれはどのような態度をもつべきなのかについても真摯に語り合いたい。

老いること

老年の愉しみ

あと十年もすれば
ぼくの脚は硬直するだろう
ジョギングは嫌い
ゴルフは大嫌い
目はかすみ
耳は遠くなり
歯は抜けおちる
頭は
アルコール疾患で
美しい思い出も邪悪な想像力も消失するだろう
舌だけは残っている

田村隆一

詩人

『言葉なんかおぼえるんじゃなかった』ちくま文庫、2014

生きる意味

人生の価値は、他人の幸せのために尽すところにあります。そしてこの“価値”は、地上生活を終えたあとも、幸福な記憶として生きつづけるはずのものです。

ハリー・エドワーズ Harry Edwards

霊的治療家

『霊的治療の解明』、梅原伸太郎訳、国書刊行会、2014

身を捨てても悔いがないという人間に出会ったかどうか。
そういうことじゃないのか。分からないですが。僕はそう思っ
てますけどね。

高倉健

映画俳優

世の中の変化と市場は暴力的です。そこでは自分の都合や自社の都合は
一切許されません。

柳井正

経営者

アナーキー・タケの詩

せい
生の「今日」

朝の陽射しに、意識が生起し、その格納庫たる肉体が動きはじめる。
はじまるのは、「今日」という事態。

「今日」のなかで何がはじまるのか。
意識は知らない。
肉体は、知る必要がない。

生は、はじまりに意気込むが、はじまる前から、ずっと在った。
「今日」がはじまった以上、知られていないものが、着実に動きはじ
めているのだ。

肉体は脚のだるさを知っているし、尿意を感じているが、依然として、
もう朝なのに、生の企みを何ひとつつかめていない。

アナーキー・タケ

クリシュナムルティのことば

ひとは、生きることの意味とは何なのだろうと問い、即座にいろんな結論をもちだすものです。あるひとは、こう言うでしょう。そのひとの条件付けから重要な意味を見出しているのです、と。理想主義者だと、理想主義的な事柄を人生において重視するでしょう。それもまた、そのひとの条件付けに基づくものであり、本で読んだ内容に影響されていたりするのです。しかし、生きることに特段の重要性を与えていないと、また、人生はこうだ、ああだとは言わなければ、ひとは自由なのです。理想からも、システムからも、政治、宗教、あるいは社会からも、自由なのです。

J. クリシュナムルティ

When one asks: What is the meaning of life? - one immediately has conclusions. One says it is this; one gives it a significance according to one's conditioning. If one is an idealist, one gives life an ideological significance; again, according to one's conditioning, according to what one has read and so on. But if one is not giving a particular significance to life, if one is not saying life is this or something else, then one is free, free of ideologies, of systems, political, religious or social.

J. Krishnamurti

The Wholeness of Life Part II, Chapter 13 3rd Public Talk Brockwood Park, 3rd September 1977

Kの生活塾 第24回『ひとはなぜ生きるのか』
2015年5月17日 京都嵯峨芸術大学 第1ゼミ室

NPO K's Point www.kspoint.com

〒617-0006 京都府向日市上植野町北小路42-6

email kspoint1998@yahoo.co.jp

tel 075-935-5394 (代表：森本 武)